



东
小

特 別
手 12
3656
28





しんしんを海は我が秋やづく花の
朝よ煮りん 早詞 是に東國方しわ

出くる傍まへに我がまへを

ふひ人頼ふは我が思ひをさるる

乃行

よわひ まれば 也露乃雲を

こころえ く ありわむ

いづれ か 雲をさ

梅のぬいぬ久末まゝの学書梅
ふゝゝあう尸へけきぬ人乃
尸さゝとやもちひ新ふへゝゝ
此さゝまゝの上東の院のほと幾
和泉式部は梅を植をき好指乃
梅と名付はゝめゝまゝをのぬめ
おひゝとわわか後よゝんなる

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
たふ乃えんゝ一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
まゝまはゝゝ逆縁乃内利益とも
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
来へまのわはゝゝ和泉式部の
植た言ひ一好を好梅よゝん
さゝゝ和泉式部のゝ人好ひ
秤揚好梅よゝんひゝゝや又
あ乃まゝゝ和泉式部乃は保所

甲

少くもの中手拍く乃事し和泉
 志きふ乃うと成しを能くも
 うく可きものもてよ能きぬ
手拍なすめうりしきや和泉
 吉乃かな成乃しをく形見とく
手拍花もあつて成志たふあも年々
 乃成のもも成りし

みやひるの気さ手拍和も昔成
手拍思ふも年月をう成き和成の
 梅おとあづくあつて成志たふ
 久うさお天壽宮乃あへて世よ
手拍やえらる名残りや和泉式部乃
手拍ちああし和泉宮やししへを
手拍やよ成をても思出乃成や昔成

田舎までもや及——なわぬい

詠舟おろろおしるり火電ふら

りや出竹へ里や 中る乃事

火電ハ出ぬさうわなうう讀をく

秋舞ハ菩薩と成て 於げさよ

すも月乃 出ふハ火電 いらう

原よ 三界豆安乃うらう成あて

三車子乃わおるすりや火電ぬ

つをさうの片し志きふハ成ホ

心覺をうはうあうしき ちん

系舟とい何ハ發心説法のあ文

くわ適及世よきうはくものハ

たし系舟おともなわと焚えも

く成城のまきしるなるわ うらう

申へよ天地をうこり鬼神成
らんをしむるしとわき神の
佛の御魂よまふもて時を
そふ乃都雲井乃雲能宜まふも
乃とけき心を籠りて天をよ
うるふ翳吹くわ所ハ九重於
東水の異地とてと塔乃居の城

やまはし悪魔をうこり雲の
あ上ハ山うけ能安成川や江浦
白川の波風もいよまふよき響ハ
考樂能強をうりとりや庭小は
池の成たへはしとわの音可
池中能栴倍ハ鼓月下乃の出入
人能うけくおうてをはしと能

言はる成るめくさめくろ様ハ
実ニ花乃お力ナ 見佛や法乃
教ニ吹送け跡ハワヤまー
日東那管ニ備らぬ九段三伏の
また冬々秋きこくわと香り
酒を乃松花うを一ありお秋を
もよかーて上お善哉乃気城

見勢池あより流る月影ハ下能
前まおおをえう巾東山陰湯乃
何言も実とささささわ 妻
兼乃 花乃兼乃園ハあやあ
梅の花 色さうろ 龍うやハ
澄けくやハかくはくうやハ
かくはく 実やささささささ

